

デンソー山岳部 2010年 冬山合宿報告書

山城 白山山系 経ヶ岳

日程 平成22年12月29日～31日（予備日1日）

メンバー 金子 清（CL） 町田 修（SL・気象）

吉田 明和（食料・会計） 津田 廣一（装備・記録）



遙かむこうに経ヶ岳

12/29（水）曇り

6:20 起床 →10:00 リフト頂上から出発 →11:20 一本 →12:15 白山伏拝 →14:20 テン場着（幕営）
→15:00～16:00 先行ラッセル→16:20 テン場

スキージャム勝山のパトロール本部で登山計画書を提出し、リフトに乗る。スキー場は、スキーヤー、ボーダーで賑わっている。リフトを降り登りだすと、いきなりラッセルの始まりだ。雪が腰の高さまであり、まるで流水プールを逆走するかのように、力強く一歩一歩進む。5～10分程度で順番に先頭を入れ替わる。私は初めてのラッセルであったが、このラッセルは意外と楽しかったし、毎日のスクワットの成果か、あまり疲れなかった。途中、赤布巻いたり旗竿を置いていくが、これは帰り道にとっても役に立った。赤布と旗竿の重要性が肌で実感できたのは、自分の経験でプラスになった。

出発から2時間、白山伏拝に到着し、さらに南東に2時間進んだところで幕営した。テントを張った後、明日のために1時間ほどトレースをつくったあと、テントに戻り宴会となった。（記：吉田）



オニュー 快適V6

12/30 (木) 曇り時々雪 テン場の位置：白山伏拝岳^{ふしおがみ}から南東に延びる尾根上P1302m付近
 5:15起床(昨日16時までのラッセル疲れと快適V6テントで1時間15分寝過ぎ)
 →6:50テン場発→10:30~40北峰直下撤退→11:26~35退路一本
 →12:10~13:06テント撤収→13:35白山伏拝一本→15:00スキージャムリフト乗り場

事前の気象予測判断から本日の行動は、午前10時を撤退時刻とした。判断理由は31日からの爆弾低気圧発達に備えて、安全地点(白山伏拝まではテントを戻したい)までの退路の確保考えた逆算時間の設定である。にも拘らず今朝の寝坊は痛い。昨日付けたトレースを速足で進む。傍らにカモシカの足跡も時々交差している。30分程でラッセル地点に到着する。乳白色のガスで視界は20・30m程、たえず地図で現在地を確認しながら、広い樹林の尾根の高点を辿りながら深い雪との格闘が続く。昨日と違ってザックが軽いので背負ったままでラッセルを繰り返す。冬山初挑戦の吉田も馬力全開でルートを開き切る。しかし太腿から腰までのラッセルは思うように距離を稼げない。退路を考えて赤布や旗竿をルートポイントに付けて行く。2時間程で尾根が顕著になり樹林も疎らになると北側に雪庇(せっぴ)が出てくる。慎重にルートを選択しながらラッセルを続ける。徐々に樹林がなくなり左右が切れた稜線になる。視界が悪く地形が読みにくい。



一步、一步 さらにもう一步

時間は既に10時を過ぎている。地図では経ヶ岳へのジャンクションピーク北峰が真近なはずだ。相変わらずホワイトアウトの状態でも南西の風も吹きつけて冬山らしくなって来た。ほんの一瞬、前方に北峰へ続くルートが見える。しかし時間は10時30分、短時間での北峰登頂は望めそうにない。リーダーが撤退を判断する。記念の写真を撮りトレースを引き返す。

吹さらしの稜線は、つい先程のトレースも消えてルートも見えない。登りに付けた旗竿の赤布を白いガスの中に探しながら下る。樹林帯に入るとトレースもしっかり出てくる。V6を撤収して白山伏拝に向かう。

昨日のトレースにはいくらか雪が吹きだまっているがラッセルで苦労する



最高到達点(北峰直下)

撤退決断

ほどではない。白山伏拝岳に秋の偵察で背伸びして付けた赤布が、足下の枝に雪に埋まるように見えている。2カ月で2mぐらいの積雪だ。テントを設営するには絶好のポイントだが、ここまで移動してきて留まる気持ちが少しも湧かない。風に乗ってスキー場の放送が聞こえてくる。2日間ラッセルに終始した身体はもはや下界の匂いに逆らえない。下山を判断し、消えたトレースに吉田が最後のラッセルを開始する。2010年の冬合宿は終わった。ピークへの登頂は出来なかったが不思議と未練はない。深雪のラッセルとルート開拓に充実した思いを持つのは私だけではないと思う。冬山の楽しみを充分味わえた合宿だった。リベンジ経ヶ岳は若手のマンパワーを強化していつか実行してほしい。

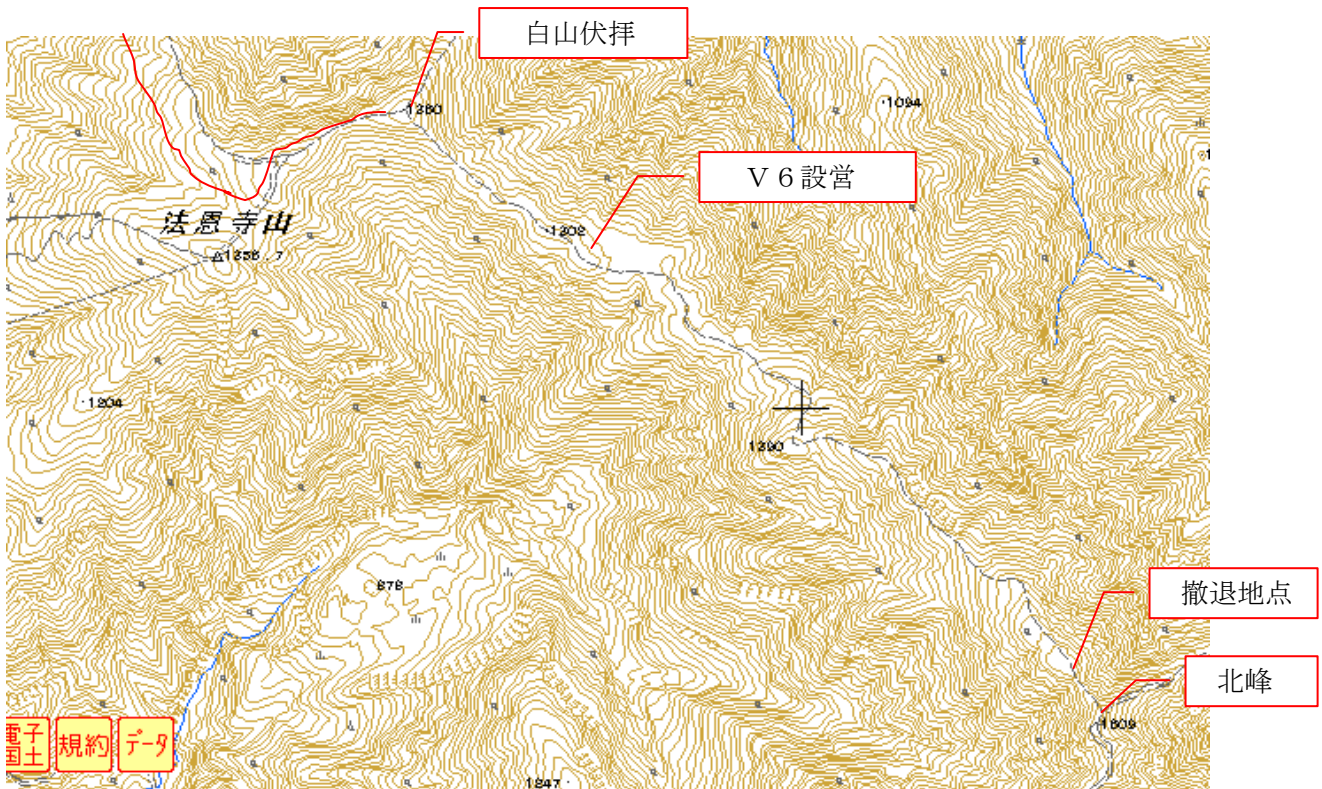


白山伏拝にて

《お礼》期間中気象情報でサポートしてくれた大矢予報官に感謝する。

あわせて下山報告で尋ねたパトロール隊室で頂いたホットレモネードの好意にも感謝する。

(記：町田)



〔番外編〕

入山前の天気予報状況から、とんでもない冬山になりそうと覚悟していたが、28日夕刻、豊橋から電車に乗った途端に、霰と雷の洗礼を受けた。リュックを担ぎ、両手いっぱい荷物を持って汗だくになって集合場所N1駐車場へ急いだ。町田号へ荷物を積み込んで、イザ勝山スキー場へ。向かう途中も雷がピカピカと思いだした様に光る。ICを降りて、道の駅様の屋根付き広場をめぐらと決め、V6の新品テントを練習も兼ねて設営、少々アルコールを体内に入れて熟睡。

翌日、起床と共に素早くテントを撤収、共同装備・食料を分割、各自のリュックへパッキングし直して勝山スキー場へ。車を指定の駐車場へ置き直し、登山届を出すと共に情報を仕入れて9時過ぎに出発。2本のリフトを乗り継いで、一気に1200mまで登る。リフトに乗っていると寒く手の指も痛くなる位。リフトを降り、早速にワカンを着用し林道を法恩寺山頂上直下の別のリフト降り場まで歩く。ここからは、新雪の斜面へと入って行く。膝上位までの雪の中をラッセルが始まる。更に雪が深くなり、リュックを置いては、道路工事を交代で繰り返す。なかなか、距離が稼げない。雪が深くなり、急斜面になるにつれ、いくら膝を上げて雪を踏み固めても体重を乗せるとズルズルと足が埋まり、より高い雪の壁となって行く手を阻む。ストックを横に両手で握り、自分の前の斜面の雪を先ず掻き出して行く手の雪の壁を壊しては、膝を突き入れ、足場を作る。その上に足をじっくりと置いて体重をかけて、雪を固めつつ、重心を上へ移動する。緩斜面になるとストックを杖にして強引に前へ進む。疲れたら交代して、リュックを取りに行つては後ろへ着く。2時間程、格闘して白山伏拝へ。小休止後、ラッセルを楽しんでは、絶好のテン場へ到着。オニューV6を設営後、翌日のルート工作と偵察。テントに入り夕食、乾杯後、早々と就寝、爆睡。

目を覚まし1時間以上寝過ごしていた事に愕然。大急ぎで朝粥を食し出発するも、1時間のハンディを背負ってしまった。少しでも挽回しようと町田がトップで飛ばす。昨日のトレースが残っており、あつと言う間に昨日の到達点に到達。今日のラッセルが始まった。荷が軽いせいか、沈み込みも少なくリュックを背負ったまま、昨日よりもスピーディだ。時々、雪の深い所や急傾斜で苦慮するが、緩斜面は強引に距離を稼ぐ。疲れ切らない内に交代を繰り返し、ラッセルの間に各自休憩、パーティ全体では休む事無く前進する。ひょっとすると登頂も？と、淡い期待を抱いては頑張る。雪庇が左手に見える様になり、やがて両側がスッパリと切れ落ちたヤセ尾根に出る。下りの手前で、金子の到着を待ち1人づつ、慎重に下る。時間は制限タイムの10時になっていた。北峰へ少しでも近付こうと、もう少し進む事にする。やや平坦な場所に達し行く手が登りになっている。ガスの中、はっきりとは見えないが、北峰直下を確認。撤退を決断し、写真に収めて来た道を引き返す。トレースが消えかけている箇所もあり、ポイントに立てた旗竿

が、ホッとさせてくれる。樹林帯に入り、吉田が若さに任せてどんどん飛ばす。私には、このスピードはついていけない。もうトレースが残っているので焦る事はない。確実にトレースを辿っていく内にテント場到着。テント撤収、パッキングし直し、白山伏拝目指してひたすらトレースを辿る。予想より、早い時間に到達。全員一致で、このまま下山と決定。温泉に思いを馳せて、ますます足取りが速くなる。吉田と町田が先行してリフト降り場まで下山。バテバテとまでは言わないが、かなり足にきている最年長の私を気遣って下りリフトに乗る為に交渉したとの事。同乗してくれるパトロール隊員を待つ（上のリフトは隊員と一緒に乗るのが規則との事）。



パトロール隊員にリュックを預け、ペアで下りリフトへ乗り込む。リフトへ乗って隊員の方と山やスキーの話を気さくに交わす。リフトを降りると、ここからはスノーモービルで、皆より一足早くパトロール小屋へ。スノーモービル初乗りも楽しませてもらった（バイクの感じ）。皆がそろそろ迄、暖かいパトロール小屋で休憩させてもらう。パトロール隊員さんも、小屋の中の女性隊員さんも親切でホットタイムを過ごす（感謝です！）。皆と合流し、下のリフトで下まで無事下山。温泉で汗を流して、飛び込みホテルで大宴会。本当に楽しい10年の山の集大成であった。（記：津田）

<リーダー所見>

今年の冬山合宿を豪雪地帯の経ヶ岳にした狙いは、若手・中堅部員に新雪のラッセルと視界の悪い中で地図を頼りにルートを探しながら登る醍醐味を体験させたく計画した。本番までに春（3月）と秋（10月）の2回偵察山行（11名参加）を実施し地形を綿密に調査した。合宿参加者は4名と例年に比べ少なかったが吉田（冬山合宿初参加）の参加で合宿が活気づいた。残念ながら悪天候で登頂出来なかったが充実した合宿ができた。また、大矢気象予報士から合宿期間中の気象情報のサポートもあり安全な判断と行動ができた。（記：金子）

<食糧所見>

初日の夕食は、ハヤシライスのルーに餅を3つ入れたが、ラッセルがあったのもっと入れても良かった。1日早く下山したので、残った食糧は各自持ち帰りとなった。

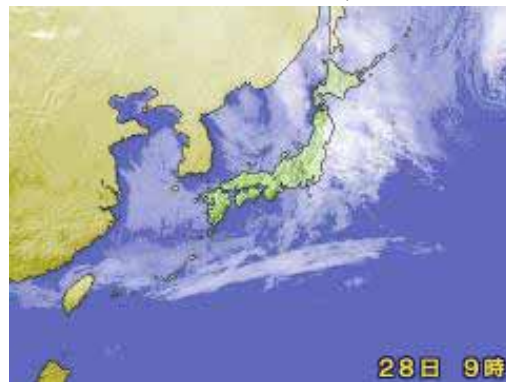
不破さんの牛肉しぐれ、亀山さんの焼酎の差し入れは大変美味しく頂きました。有難うございました。

<装備所見>

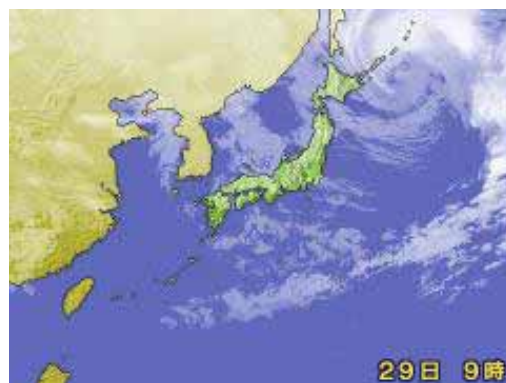
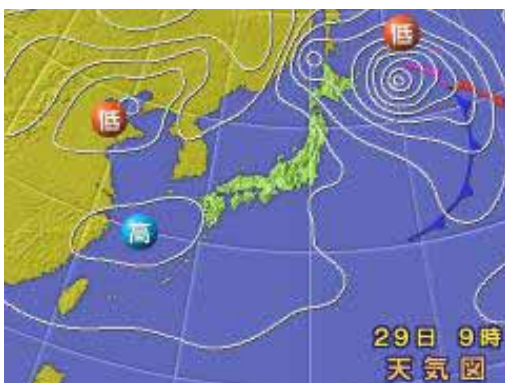
オニューのV6テントは本当に快適、まさしく御殿。旗竿（12本）・赤布は、非常に有効、冬は必需品。3日行動予定が2日になった為、L缶は2つ共半分程度残った（予備のS缶は使用せず）。竹ペグは15本で十分（まだ余り有）。雪袋は薄く破れてしまった為、予備を持参した方がいい。個人装備では、私の懐電が壊れ金子の予備を借りた。各自で一つ、軽い小さなものを持参するのもいいと思う。

< 気象報告 >

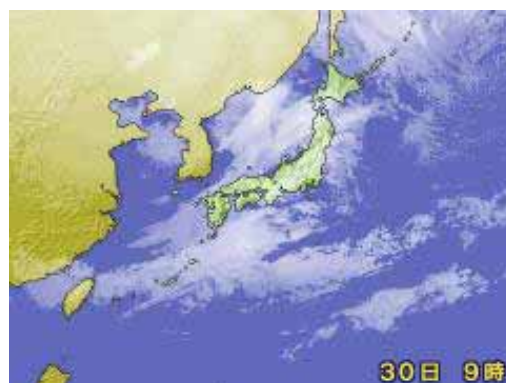
気象担当：町田



28午後、日本海に低気圧が発生して発達しながら東北地方に進む
 ⇒北陸自動車道敦賀IC辺りで、ブリ起こしの雷とみぞれで凄い天気だった。越前勝山に出るとさほどでもない。悪天を避けて屋根のある道の駅にV6を張る。快適。



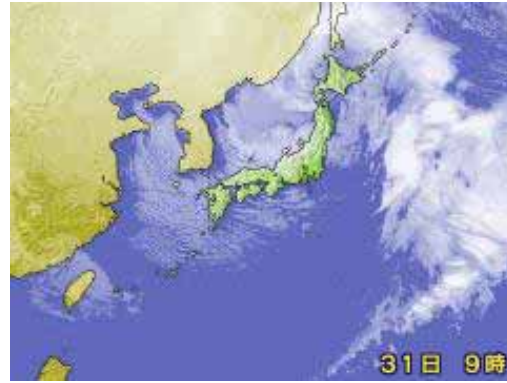
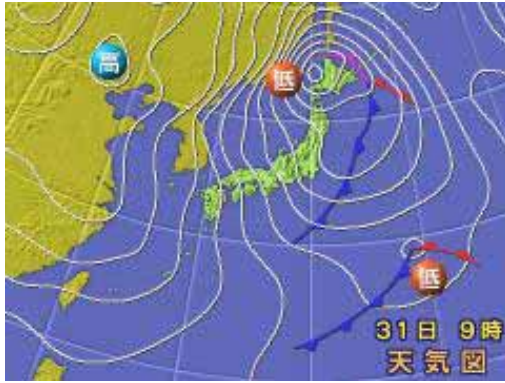
29日上記の低気圧は三陸沖に発生した低気圧と一体となって、太平洋側で発達し、再び冬型の気圧配置となる。JPCZ(日本海収束帯)がはっきりしているので、北陸方面の山は雪となる。
 ⇒さほど風雪は強くないが視界が悪くホワイトアウト状態。地図で現在地を確認しひたすらラッセル。



30日一旦冬型は少し緩むが、朝、再び日本海の山陰沖に低気圧が発生して、発達しながら東北地方に進む。この低気圧は、上空の寒冷渦の直下にあり動きが遅い。低気圧の移動とともに次第に冬型気圧配置になる。

⇒テン場周辺は樹林のせい風雪は弱い。短期決戦を決めてひたすらラッセル。

この日も視界が悪く先の見通しが利かない。樹林帯を抜けても尾根はホワイトアウト状態、北側の雪底に注意しながらの苦しいルート作りになる。風雪も強くなり視界の利かない状態のわずかなガスの切れ間にルート確認をして退却を判断する。明日以降の悪天を予測して、リスクを避けるべく安全地帯まで脱出する。



31日上記の低気圧は三陸沖に発生した低気圧と一体となって、急激に発達して強い冬型気圧配置となる。低気圧は、12/31の午後には980hPaまで発達。(いわゆる爆弾低気圧です)冬型が緩む1/3まで、日本海側では暴風や大雪となる恐れがある。

<会計報告>

収入	会費 (20,000×4名)	80,000
	渡辺さん 御志	3,000
	江頭さん 御志	3,000
収入合計		86,000

渡辺さん、江頭さん、ありがとうございました。

支出	食費	7,911
	交通費	23,600
	リフト代	6,000
	風呂代	1,600
	宿代(30日宿泊)	43,785
	返金	3,104
支出合計		86,000